

学校教育目標	自ら伸びゆく児童の育成
目指す学校像	すべての子どもが笑顔(Well-being)で通う学校 保護者・教職員・地域の方もみんなが笑顔(Well-being)になる学校
重点目標	1 「主体的・対話的で深い学び」のための「デジタル(ICT活用)とリアル(体験)」をバランスよく組み合わせた教育実践 2 誰もが安心して通えるサポート体制の構築 3 地域とともにある学校の具現化 4 農園(学校ファーム)を活用した潤いのある教育環境の整備 5 教職員の Well-being(幸せ)を実現する働きがいのある職場づくり

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標							実施日令和8年1月14日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	【現状】「個別最適な学び」「主体的な学び」の実現は進んでいる。市児童アンケートの結果は以下のとおりである。 ○「…次の学習につなげることができているか」のR6肯定的回答→高学年91% ○「…自分から取り組んだか」のR6肯定的回答→高学年94.3% 【課題】学びをいっそう深めるための「デジタルとリアル(体験)」をバランスよく組み合わせた系統性のある指導を実践する。	個別最適な学びの創造 協働的な学びの創造	○指導形態の工夫(課題別、習熟度別) ○児童が自身で計画・調整(学習目標、学習計画、学習形態等) ○具体物操作や実体験を取り入れた指導計画の工夫 ○学習状況調査結果に基づく指導内容の重点化	○市児童アンケート(3~6年生)「自分に合った授業」→肯定的回答が4学年とも市平均を上回ったか。 ○学習状況調査結果に基づいて計画した「学力向上ポートフォリオ」の実施目標(知識技能・思考判断表現等)がいずれも8割以上になったか。	・本年度の教職員研修は「学習に対する児童の自己調整力の向上」を目標に掲げ、各自がテーマを設定して授業改善に取り組んだ。その結果、市児童アンケート(3~6年生)「自分に合った授業」に対する肯定的回答は3年94.3% 4年95.55% 5年94.7% 6年92.2% で、3学年がR6市平均より上回った。(+0.9pt, +1.25pt, +1.5pt, -0.1pt) ・6年生が4月に実施する全国学力・学習状況調査・3~6年が1月に実施する市学習状況調査の結果を全教員で分析し、その対策を「ポートフォリオ」で計画した。校内研修と合わせて取り組んだことで多くの教員がポートフォリオの目標を意識して取り組み、目標(8割以上)を達成した。	A	・R7年度教職員研修では、学習の進捗や目標を児童が選択できるような授業を研究した。各教員が独自の方法で研究を進めているので、研究の成果には限界がある。 ・来年度は外部指導者を招聘するなどして、研究の内容の正当性を高めていく。 ・「学力向上ポートフォリオ」特に「思考・判断・表現」の項目における学力向上策に「振り返り活動」と「読書活動」が有効だったので、R8年度にはさらに発展させて継続させたい。	・授業参観してみると、6年間の成長が伺える。 ・有志による防災学習は頼もしく思う。青少年赤十字にも加盟したことで、子どもの主体的な活動が広がることよい。 ・学習者用PCが入れ替わるので、いっそうの活用を期待する。 ・教員自身が学びながら指導にあたるということが分かった。引き続き、指導力の向上に努めてほしい。
2	<現状> ○Sola ルームは活用しているが十分とはいえない。 ○スクールカウンセラーとつながった児童→24人 ○スクールソーシャルワーカーとつながった児童→51人 ○市児童アンケート「学校に行くのは楽しい」に肯定的に回答した児童は90.3% ○教育相談に関する保護者アンケートの肯定的回答は91.4% <課題> ▼Sola ルームに関する教職員アンケートの肯定的回答は44%だった。Sola ルームを人的・物的に充実させたい。	児童一人ひとりの個性に対応するための特別支援教育の充実 児童のサインの早期把握と即時対応	○スクールカウンセラー等との連携 ○校内ケース会議の実施 ○個別の指導計画(潤いファイル)の作成 ○Sola ルームの活用 ○交流及び共同学習の実施 ○あおぞら学級の弾力的運用等	○市児童アンケート(全学年)「学校に行くのは楽しい」→肯定的回答95%以上になったか。 ○Sola ルームに関する教職員アンケートの肯定的回答が60%以上になったか。(R6:44%)	・市児童アンケート「学校に行くのは楽しい」に肯定的に答えた児童が95%を超えた学年は1年(96.6%)だけだったが、6学年平均は91.7%となり、目標をほぼ達成できた。(2年89.1% 3年93.1% 4年91% 5年87.2% 6年93.1%) ・教職員アンケート「学校はSola ルームを開設し、円滑に運用できるように取り組んでいるか」は50%の教職員が肯定的に回答した。目標には届かなかったが、昨年度(44%)よりは上昇した。	B	・目標値を達成した反面、約9%の児童が「学校に行くのは楽しくない」「どちらかといえば楽しくない」と答えている。 ・Sola ルームの利用希望者は増えつつあるが、専用の場所と指導者の確保が難しく、万人に合うような環境はつくれなかった。 ・授業のない時間の教員をSola ルームの担当者に充てるなど年度当初から計画して、学校全体で児童支援の体制をつくっていく。 ・スクールカウンセラー等の相談の専門家と連携し、児童のサインを早期に把握する。児童が毎朝入力するスクールカウンセラーのデータの有効な活用方法を工夫したい。 ・毎月の教育相談(サイン相談日)の周知を徹底する。 ・児童への指導や啓発は繰り返し行う必要がある。 ・「いのちの安全教育」は実施時期を見直し、「命の支え合い授業」は相談の専門家を指導者に加え、内容の充実を図る。	・Sola ルームを担当する人の人選と確保は難しいと思われるが、Sola ルームが活用できるようになるとよい。 ・登校できない児童への対応は、引き続き工夫して行ってほしい。
3	<現状> ○市児童アンケート「地域行事への参加」は74.2%(R5より+2pt)で、全学年とも市平均を上回っている。 ○市児童アンケート「地域や社会をよくするために何かしてみたい」は85.7%(R5より-1pt) <課題> ・地域でのあいさつが不十分であることを児童も課題に感じている。	児童を主体とした地域への参画	○地域とのつながりをもてるよう、児童会を中心に大原中学校区で連携し、全校で「忘れな草プロジェクト」に取り組む。 ○学校運営協議会へ児童も参画できるようにする。 ○公民館行事や育成会主催事業に児童が参加できるようにする。 ○地域における防災意識の一体化を図るため、近隣の保小中学校と同日に引取り訓練を行う。	○市児童アンケート「地域や社会をよくするために何かしてみたい」→肯定的回答が87%以上になったか。(R6:85.7% R5:86.7%) ○市児童アンケート(1~6年生)「地域や社会をよくするために何かしてみたいか」→全ての学年が市平均を上回ったか。(R6:4つの学年で上回った)	・各学年の各教科等で地域の教育資源を活用するようにした。市児童アンケート「地域や社会をよくするために何かしてみたい」に対する肯定的な回答は85.7%であり、目標値には届かなかったが、4・5・6年の3つの学年は目標の87%を上回った(87.6%、97.2%、91.2%) ・市児童アンケート R7 質問項目「地域や社会をよくするために何かしてみたいか」に対する肯定的な回答は、1年84.3%、2年83.2%、3年81%、4年87.6%、5年87.2%、6年91.2%となり、5つの学年でR6市平均を上回った。(+2.9pt, +0.3pt, -4.3pt, +1.1pt, +0.5pt, +6.6pt)	A	・本年度実施できた様々な取組を来年度も計画的に行っていく(学校運営協議会への参加、公民館行事・育成会行事への参加、避難場所運営訓練への参加、地域合同引渡訓練等) ・学校農園が地域の方との交流の場となるような仕組み作りをし、農園作業の計画を作成する。 ・「総合的な学習の時間」の指導計画を見直し、地域の教育資源をさらに活用する。 ・「忘れな草プロジェクト」の取組に、地域との関わりが増えるようにする。	・学校運営協議会で児童と対話できたことは評価できる。 ・育成会主催事業に児童がボランティアで参加してくれたり、避難場所運営訓練に参加したりして、児童が進んで地域に関わってくれている実感がある。 ・当協議会発案の中学校区全体での募金活動が実施できてよかった。
4	<現状> ○R7でリフレッシュ工事が終了する。 ▼農園が十分に活用できず、手入れが行き届かない。 <課題> ・校舎内外をきれいに保ちたい。 ・農園の活用及び管理計画が必要である。	農園(学校ファーム)の有効活用 教育環境の整備	○校内の関係分掌(環境、理科、生活、総合学習)が連携し、7月までに活用計画を作成する。 ○PTAと連携し、農園アドバイザーや保護者ボランティアの協力を得る。	○本年度、全ての学年児童が農園で活動ができたか。 ○児童アンケート「農園の活動は楽しいか」→肯定的回答が60%以上になったか。(R6は未実施)	・PTAの協力を得て学校農園が整備でき、全学年が農作業(畝作り、堆肥作り、種まき、収穫)を体験することができた。児童アンケート「農園の活動は楽しいか」に77.3%の児童が肯定的に答えた。	A	・R7年度内に農園利用計画を作成する。 ・農園を、児童と保護者・地域の方との交流の場になるような仕組みをつくっていく。	・農園が復活できてよかった。今後は、保護者や地域の人との交流等にも活用できるだろう。 ・リフレッシュ工事が滞っていることが気になる。南門が早く使えるようになってほしい。 ・校舎周りの手入れは防犯に役立つ。 ・校庭の砂ぼこりの対策をお願いしたい。
5	<現状> ○教職員アンケート「学び続ける教師の具現化」に80%の教員が肯定的に回答した。 ○対象職員30名の時間外在校時間(12月末現在)は、組織平均32時間だった。 月30時間以下の職員 6人 月50時間以上の〃 6人 <課題> 教職員の Well-being(幸せ)を実現する働きがいのある職場づくりが求められている。	「学び続ける教師」の具現化 ICTの活用とSSSP(働き方改革)の促進	○研修主任と連携し、キャリアの異なる教員が「協働的な学び」をつくれる研修体制をつくる。 ○教職員一人ひとりが「一人1テーマ」を掲げ、学校課題研修に取り組む。	○教職員アンケート「研修」に関する質問→肯定的回答が90%以上になったか。(R6:80%)	・教員同士が対話を重ねながら自身が設定した授業課題について探究した。その結果、教職員アンケート「学校は『対話』を大切にしながら教員一人ひとりの資質能力が高まる研修を行っている」に対し、96%の教員が肯定的に回答した。	A	・対話型の研修は教員を主体的にし、内発的動機につながった。教員自身が「探究」するためにも対話を重視した研修を行っていく。 ・外部からの指導者を招聘する等、研究内容の正当性を高める工夫を行う。	・当協議会でも「挨拶を中心としたコミュニケーションが大切だ」と考えている。対話型を取り入れて研修効果を高めたい。 ・教職員は本当によく頑張っている。PTAや地域としても精一杯協力したい。
			○学校Dxと連携し、校務のデジタル化を進化させる。 ○ワークライフバランスを推進するために、月2回のノー残業デーを実施し、時間に対する意識を高める。	○時間外在校時間が一月あたり平均45時間以下かつ年間360時間以下になったか。	・職員間や保護者への連絡を電子化させ、業務をスリム化した。また、勤務時間を意識した働き方ができるよう、勤務の割振り変更(残業時間の調整)を適時行うとともに、計画年休を推奨した。 ・対象職員32名の時間外在校時間は12月末現在、36hとなり、昨年度より伸びたが、30h以下が12名、50h以上は4名で、全体として在校時間は短くなっている。	B	・業務用PC及び学習者用(児童用)端末が後進されるので、より効果的に健全な活用方法を模索し、学習の充実や業務の改善に役立てる。	